

日中友好協会倉敷支部映画会「大地の子総集編第二部『流刑』・第三部『再会』」

8月4日ライフパーク倉敷視聴覚ホール 14:00～16:00

上記の会が開催されましたが、今回は参加者が8人と寂しい会になりました。大地の子総集編第二部『流刑』のあらすじ「1966年、陸一心の勤務する鋼鉄公司にもプロレタリア文化大革命の嵐が及んでいた。労働者たちが上司を糾弾する中、陸一心も日本人の種であると暴露され、糾弾を受けた。陸一心は寧夏回族自治区の労働改造所に送られた。寧夏回族自治区の労働改造所では、改造所から40～50分歩いて黄河上流のダム建設現場で労働させられた。解放軍兵士の監視のもと、土をモッコに盛って運ぶ作業は厳しく、陸一心の身体を痛めつけた。

そんなことを知らない養父母である陸徳志・淑琴夫妻は、一心からの連絡が途絶え心を痛めていた。1969年12月、陸一心は内蒙古の労働改造所へ移動させられた。羊の放牧を任された。ある日、いつものように羊の放牧に従事していると、北京からの巡回医療隊がやってきた。トラックが大きな穴に後輪を落としたので、助けを求められた陸一心はスコップで後輪の前を掘り、そこに板をはさんで後輪が穴から脱するのを助けた。そこで陸一心は初めて運命の人、江月梅と出会った。」

第四部『再会』のあらすじ「羊を食肉用に解体する作業で腕を切った陸一心は破傷風にかかった。労改の日本人に貴重な血清を打つかどうか医療班で話し合ったが、江月梅の意見で血清を打つことに決定した。陸一心は命を取り留めた。江月梅は陸一心が内蒙古の労改にいることを匿名の手紙で陸徳志に知らせた。陸一心が内蒙古の労改にいることを知った陸徳志は、北京の人民来信来訪室で陸一心の無実を訴えることを決心する。しかし、人民来信来訪室の扉の前は長蛇の列であった。秀蘭は袁力本に手紙を書き、『北京に人脈がありましたら叔父に援助の手を。』と訴えた。袁力本の訴えを聞いた上官が手を回してくれ、陸徳志の訴えは周恩来首相に届くことになった。

ある日、陸一心は内モンゴルの人々が「黒災」と呼ぶ砂嵐に巻き込まれた。すると、同じく砂嵐に巻き込まれた江月梅と偶然出会うことになった。」

あらすじを聞くとこの後の展開が気になるでしょう。今回は多くの人が参加してくれるよう期待します。

参加者の感想を紹介します。

70歳代以上女性「若いころ、山崎豊子さんの作品は何冊か手に取り、その後映画等でも大きな影響を受けてきたように思っています。この作品も3度くらい触れていますが、何度も作品に出会うことにより大きな学びを得させて頂いているように思います。何度も何度も出会いたい方です。」

70歳代以上男性「第一部は都合で欠席しました。今まで、日本人が朝鮮人たちを強制労働させていたことをいろいろの場で見ましたが、日本人ということで差別を受けていたことが生々しく語られていたことに心を動かされました。日本人であろうと中国人であろうと、同じ人間であるということがよくわかりました。」

70歳代以上女性「多くの理不尽が丁寧に描かれていたように思います。すごい内容の映画でした。昔の出来事がよくわかりました。次回はどのようなでしょう。」

70歳代以上男性「久しぶりに大地の子の映画を観させていただきました。政治社会の怖さ、権力の怖さを垣間見ることとなり、リーダーの間違った決断がいかに怖いことにつながるのか、今も同じことが起こるだろうと感じ、心配しています。」

70歳代以上女性「よかった。テレビで見っていたので内容はわかっていたが、陸一心と父徳志の強いつながりに感心した。その当時から台湾と中国は関係が悪かったのか。華僑の人もいろいろ苦労したのか、一心に日本語を教えてくれたのが心に残った。」
(犬飼 繁)

日中友好協会倉敷支部映画会

今回は9月28日(土) 14:00～16:00

ライフパーク倉敷視聴覚ホールで開催しま



日中友好協会岡山支部ホームページ
<http://rizhongyouthao.iinaa.net>
 メールアドレス
rizhongyouthaoxiehuiokayama@yahoo.co.jp



1028
2024/8/15

「79年ぶりの同窓会」 近現代史研究者 青木康嘉

—8月17日(土)「日中講座」に参加ください！—

1937(昭和12)年5月18日、今岡泰子は岡山県苫田郡上加茂村(因美線知和駅付近)で生まれた。1939(昭和14)年彼女が2歳の時、一家9人で林口県龍爪開拓団八幡郷へ移民した。八幡郷は、林口駅に近い「石炭のぼた山」が近くにある岡山県出身者のみで構成された部落だった。家族を紹介すると、父岩夫、母好子、長女千盤子(龍爪満蒙開拓女塾生・19歳)、長男且昌(17歳)、次男昌由(15歳)、次女久子(14歳)、三男良晴(11歳)、四男秀明、三女泰子(8歳)、四女宮子、五男重敏が現地で誕生して、11人家族だった。

上房郡賀陽町出身の高見慎家族とは八幡郷の四軒隣で、1938(昭和13)年1月生まれの高見エミ子とは龍爪在満尋常小学校(分校)の同級生だった。家族を紹介すると、父慎、母きしの、母の妹君恵(14歳)、エミ子(7歳)、弓子(4歳)、雪子(2歳)、幸成(6か月)7人家族であった。昭和20年7月高見慎は、根こそぎ召集で東寧に向かったが、戦死した。今岡泰子と高見エミ子は龍爪国民学校分校で同級生だった。

昭和20年8月9日、林口に爆弾が落ちた。ソ連参戦した。8月12日龍爪開拓団本部を出発して仙洞にある日本軍陣地に向けて逃避行が始まった。しかし、そこはもぬけの殻、牡丹江を渡り、9月1日横道河子でソ連軍に投降するまでに、家族は母きしのと君恵とエミ子の三人になっていた。拉古收容所を経て越冬するため奉天(瀋陽)の春日小学校で約1年間過ごし、その後3人で日本へ引き揚げた。

今岡泰子のグループでは、一番下の弟重敏が横道河子に近い山中で死亡した。拉古收容所、新京(長春)の室町小学校、緑園(東大房身)の旧日本軍官舎で越冬したが、飢えと寒さで次男昌由、四男秀明、四女宮子が相次いで死んだ。母の好子も倒れ、今にも家族全員が死にそうな状態になった。そんな中、一番上の姉千盤子が家族に援助してもらうことを条件に12歳上の中国人男性と結婚した。1人では寂しいということで嫁ぎ先の夫の妹家族のもとに下働きに行った泰子。父岩夫、母好子、長男且昌(17歳)、次女久子(14歳)、三男良晴(11歳)が日本へ引き揚げた。

3人の妹や弟を失ったが、引き揚げ帰国した高見(織田)エミ子。姉と二人中国に残った残留孤児泰子の運命はどのように変わっていくか。そして79年ぶりに再会した二人を紹介したい。



中国百科検定

小川涼子

8月10日夕方、仕事から帰ってきて、はあーやれやれ、と一息ついていたら、黒猫さんが荷物を運んで来てくれた。母が通販でもしたのかと思ったが、宛名は私だった。まったく心当たりがない。一瞬、受け取らないほうがいい詐欺的な物か……?! と疑ったが、送り主が日中友好協会だったので、受け取った。

いったい何が送られてきたのか、と伝票を眺めまわしてみると、楯、と書いてあった。楯! 楯がもらえたら、あれか。百科検定か? と予想はつくが、ついこの間、特級全科目合格で石をもらったばかりじゃないか。開けてみたら、楯と賞状が入っていた。「百科博士授与記念」って書いてある。だよなー。これ以外に日中友好協会から楯をもらうようなことがない。

うんうん、百科検定だった百科検定だった、と思いながら、私は楯をそっと箱に戻した。

楯を飾る場所は、うちにはない……!!

さて、こんな感じで忘れたところに記念品やら楯やらを送ってくれる、中国百科検定ですが、12月7日(土)の第16回の受験申込が9月1日から始まります。確か。これから特級全科目制覇していく方々は、合格してから間を置かず記念品など届くと思いますので、ぜひ受験してください。

岡山支部では9月、10月、11月の第3日曜の14時から16時の予定で、百科検定学習会をしますので、こちらにも参加よろしくです。



次回の新聞発送作業は
8月29日(木)午前10時半か
ら民主会館で行います。
前回お手伝いくださった方
です。

貝吹
河井
真田